

歴博国際シンポジウム

異文化を伝えた人々

—19世紀在外日本コレクション研究の現在

Rekihaku International Symposium
Transmitters of Another Culture:
Research on Japan-related Overseas Collections from the 19th Century

開催日程

2017年10/28(土)・29(日) 日英同時通訳あり

Oct. 28th (Sat.) and 29th (Sun.), 2017
Presentations will be in Japanese and English with simultaneous interpretation.

会場

国立西洋美術館

講堂(地下2階)(台東区上野公園7番7号)

Auditorium, The National Museum of Western Art, Tokyo (B2 floor)

主催

人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館
独立行政法人国立美術館 国立西洋美術館

National Museum of Japanese History (National Institutes for the Humanities)
The National Museum of Western Art

助成: 日本万国博覧会記念基金

申込方法

■ 参加申込フォーム Registration form

<http://www.rekihaku.ac.jp/research/inter/2017/symposium2017.html#>

■ 往復はがき Reply-paid postcard

「10月28日、29日歴博国際シンポジウム参加希望」と明記し、氏名(ふりがな)・所属(ある方のみ)・住所・電話番号・希望される参加日をご記入のうえお申し込みください。

Please write "Application to the international symposium on 28th and 29th October" along with the following information on the postcard and send it to the below address.

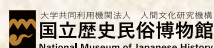
・ Name, affiliation, address, phone number, the date(s) you wish to participate.

<お申込・問合せ先 contact>

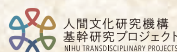
国立歴史民俗博物館 研究協力課 企画・渉外係

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117 番地

Research Affairs Division, National Museum of Japanese History
117 Jonai-cho, Sakura City, Chiba, 285-8502



国立西洋美術館
The National Museum of Western Art



◀日本コレクションの展示風景 Brandenstein-Zeppelin Family Archives

異文化を伝えた人々—19世紀在外日本コレクション研究の現在

海外には、近世から近代にかけて外国人によって収集された膨大な日本関係資料が存在し、極めて有用な歴史資源として今後の調査研究の進展が期待されています。国立歴史民俗博物館は、これまで、国内外の研究機関との連携により、ドイツ人医師フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト収集資料をはじめとする在外日本関係資料の調査研究を推進し、データベースの公開や、巡回展示などをおこなってきました。さらに2016年からは、シーボルトの息子たちの世代を対象とするプロジェクトに着手しています。

本シンポジウムでは、国立西洋美術館における「北斎とジャポニスム」展開催を機に、19世紀における日本コレクション形成の動向をたどりたいと思います。江戸時代後期から開国、さらにはジャポニスムの時代へと変化する19世紀の収集家とその周辺の人々に注目しつつ、彼らの個人的な視線はもとより、博覧会や博物館設立とコレクション形成との関連、貿易や産業振興などの側面にも留意しつつ、日本文化受容とその紹介の具体相に迫ります。あわせて在外日本関係資料の活用の現状と問題点についても、認識を深める機会にできればと思います。



① 厨子臺 琉球
 ② 儀礼用太刀 アイヌ
 ③ 兜 日本
 ④ 埴輪 日本
 ⑤ 蒔絵鏡台 日本
 ⑥ アットウシ織り機 アイヌ
 全てウィーン世界博物館 Weltmuseum Wien 所蔵

■プログラム

10月28日(土)

- 10:00 ~ 開場(受付開始)
- 10:30 ~ 10:40 開会の挨拶 久留島浩(国立歴史民俗博物館長)
- 10:40 ~ 11:10 趣旨説明 日高 薫(国立歴史民俗博物館)
- 11:10 ~ 11:40 報告① 保谷 徹(東京大学史料編纂所)
「東京大学史料編纂所における在外日本関係資料の研究資源化への取り組み」
- 11:40 ~ 12:00 質疑応答
- 13:00 ~ 13:30 報告② 櫻庭美咲(国立歴史民俗博物館)
「磁器陳列室をめぐる神聖ローマ帝国諸侯の競合と日本磁器」
- 13:30 ~ 14:00 報告③ ルドルフ・エッフェルト(ライデン大学)
「日本コレクションの委任—“新”王立キャビネットの収集に携わった3人の文官」
- 14:00 ~ 14:30 報告④ ブルーノ・リヒツフェルト(ミュンヘン五大陸博物館)
「変わりゆく視覚:国立ミュンヘン民族学博物館・五大陸博物館におけるシーボルト・コレクションと150年間の日本文化展示活動」
- 14:30 ~ 14:50 休憩
- 14:50 ~ 15:20 報告⑤ ヨハネス・ヴィーニンガー(オーストリア応用芸術博物館)
「オーストリア応用芸術博物館(ウィーン)所蔵ハインリッヒ・シーボルト・コレクション」
- 15:20 ~ 15:50 報告⑥ 小林淳一(東京都江戸東京博物館)
「モースコレクションにおける陶器その他について」
- 15:50 ~ 16:20 報告⑦ 鈴木廣之(東京学芸大学)
「磁器から陶器へ:19世紀後期における西洋の日本美術への関心の変遷」
- 16:20 ~ 17:00 質疑応答

10月29日(日)

- 9:30 ~ 開場(受付開始)
- 10:00 ~ 10:30 報告① ジュヌヴィエーヴ・ラカンブル(オルセー美術館名誉上席学芸員)
「在仏19世紀コレクションにみるオランダおよび中国由来の日本製漆器—1855年以前の状況—」
- 10:30 ~ 11:00 報告② 今井 朋(アーツ前橋)
「美術商の視線、蒐集家の視線、美術館の視線 在仏極東美術品を巡る嗜好の歴史」
- 11:00 ~ 11:30 報告③ ジラルデッリ青木美由紀(イスタンブール工科大学)
「スルタンが愛した日本:トルコ国立宮殿局所蔵日本美術工芸品コレクション」
- 11:30 ~ 12:00 質疑応答
- 13:00 ~ 13:30 報告④ 堅田智子(上智大学)
「アレクサンダー・フォン・シーボルトと『視覚による広報』の場としてのウィーン万博」
- 13:30 ~ 14:00 報告⑤ ベッティーナ・ツォルン(ウィーン世界博物館)
「ハインリッヒ・フォン・シーボルトがアイヌに関する自著に使用した図版について」
- 14:00 ~ 14:20 休憩
- 14:20 ~ 14:50 報告⑥ フィリップ・スホメル(ブラハ芸術大学・ブラハ国立博物館研究部)
「日本装飾芸術を軸とした19世紀チェコにおける日本美術収集」
- 14:50 ~ 15:20 報告⑦ 澤田和人(国立歴史民俗博物館)
「アメリカにおける日本の染織品に対する嗜好の変化—野村正治郎の販売活動を手掛かりとして—」
- 15:20 ~ 15:40 質疑応答
- 15:40 ~ 15:50 休憩
- 15:50 ~ 16:50 全体討議
- 16:50 ~ 17:00 閉会の挨拶 馬淵明子(国立西洋美術館長)

■会場アクセス

●JR 上野駅下車(公園口出口) 徒歩1分 ●京成電鉄京成上野駅下車 徒歩7分 ●東京メトロ銀座線、日比谷線上野駅下車 徒歩8分
 ※美術館には駐車場はありません。周辺の駐車場の数に限りがあるため、来館の際は公共交通機関をご利用ください。